

ふくしまオーガニック通信

～オーガニック・ランドふくしまをつくろう～

No. 28 - 3

平成29年 3月23日

農業総合センター有機農業推進室
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/w4/nougyou-centre/index.htm>

TEL 024-958-1711

FAX 024-958-1730



平成28年度環境保全型農業推進コンクール表彰式

農業総合センター有機農業推進室

平成29年2月24日（金）に、東京都港区の三田教養会議所において、平成28年度環境保全型農業推進コンクール表彰式（主催：農林水産省）が開催され、福島県からは二本松市の「オーガニックふくしま安達」が農林水産省生産局長賞を受賞しました。講評の中で、オーガニックふくしま安達は、風評払拭への取り組みや、耕作放棄地解消の動きが評価されていました。

他には、農林水産大臣賞を熊本県の「株式会社うきうき森田農場」が受賞し、生産局長賞を山形県の「JA山形おきたま飯豊地区青年部」、愛知県の「JAあいち豊田桃部会」、鹿児島県の「霧島製茶株式会社」がそれぞれ受賞しました。



賞状を受け取るオーガニックふくしま安達 代表の関元弘 氏（中央左側）

健康な土づくり研修会を開催しました

農業総合センター有機農業推進室

平成29年1月20日に、農業総合センター大会議室において健康な土づくり研修会を開催し、約150名の方が参加しました。

この研修会では、弘前大学の杉山修一氏から「すごい畑のすごい土」と題しご講演をいただきました。

講演では、次のようなお話しがありました。

- ・無肥料・無農薬（自然栽培）は、何年続けても経営的に自立できるとは限らないので、思想ではなく経営としてしっかり行うこと。
- ・失敗の多くは、土づくりができていないため。地力を高めること。無肥料栽培を続けても地力が上がるとは限らない。外部からの堆肥・有機物の投入が必要な場合も多い。土づくりには、通常3年以上かかるので、その覚悟が必要である。

〔例〕収量200kgの稲わらを土に戻して、翌年栽培しても200kgの収量

収量480kgを目指すには、毎年、相応の稲わら（有機物）の投入が必要

- ・病虫害を受けないためには生物的環境の整備が必要である。

また、実践事例として郡山市の石澤農園 石澤智雄氏から「8年間！農薬と肥料を使用せずに栽培した水稻ほ場」について報告をしていただき、土づくりの重要性を再確認しました。



写真 杉山修一氏の講演

有機農産物マーケティング研修会を開催しました

農業総合センター有機農業推進室

平成28年12月13日に、農業総合センター大会議室において有機農産物マーケティング研修会を開催し、約50名の方が参加しました。

この研修会では、宮城大学の谷口葉子氏から「有機農産物の流通消費を踏まえた今後の有機農業振興のあり方について」、イオンリテール株式会社東北カンパニーの柳谷真也氏から「東北地域における商材としての有機農産物について」と題し、ご講演をいただきました。

出席者から次のような質問がありました。

質問1：消費者に「有機農産物」をもっと理解してもらうには、「有機農業の語り部」を育成していくことが大切ではないでしょうか。

回答1：(谷口氏) 仙臺農塾のように学ぶ・体験することができる交流の場が大切であり、そうしたネットワークづくりを進めていくことが必要と考えています。

質問2：平成23年2月に有機JASの認証を初めて取得し、これからというときに福島原発事故で中止せざるを得ませんでした。福島県の農産物は、他県とは違う問題を抱えています。イオンリテールで福島県産有機農産物の販売は大丈夫なのでしょうか。

回答2：(柳谷氏) 福島県では農産物検査を厳しく実施し、安全なものを出荷していると考えていますので、問題ありません。

また、研修会終了後には、講師を囲んで有機農産物の実際の取引などについて意見を交換し、有機栽培農家の今後の商談につながるきっかけとなりました。



写真 谷口葉子氏の講演

水田小型除草ロボットの試験について

農業総合センター有機農業推進室

平成27年度より農林水産分野イノベーションプロジェクト推進事業に基づき実施してきた水田除草ロボットの試験の内容を簡単に紹介します。

ロボットの除草効果を確認したところ、走行回数が多いほど子葉期コナギの除草効果が高いことがわかりましたが、苗への影響（引き抜き・倒し等）については次年度再試験することになりました。

また、これまでのGPS利用した位置情報を測定してほ場を認識しロボットを動かす方式から、簡易な動画カメラ方式にシステムを変更し、さらに転回時に速度を落とすプログラムに改良したところ、深みにはまっても脱出が可能となり、安定した走行が実現可能となりました。

来年度は、県内3カ所で現地実証試験を行い、製品化につなげるデータ収集を行う予定です。



改良型ロボットの走行の様子

有機農業再生支援事業実証ほ シュンギク (二本松市)

農業総合センター有機農業推進室

28年度の有機農業再生支援事業において、二本松市の佐藤佐市さんのほ場にシュンギクの実証ほを設置しました。

近年、冬期にビニールハウス内でハウレンソウやシュンギクなどの葉物野菜を栽培していると、ハクサイダニという害虫が多発し、葉菜類の葉に食害を受けて出荷出来ないケースが見られるようになってきています。慣行栽培では化学農薬の散布で対応していますが、有機栽培の場合は有機JASに適合した資材を使用するしかありません。



ハクサイダニ

実証ほでは、ヤシ油を主成分とする「サンクリスタル乳剤」について、実際の栽培現場で散布した場合の効果を検証しました。

今回の試験では、12月2日にハクサイダニの発生を確認し、そのすぐ後の12月4日にサンクリスタル乳剤の散布を実施したことで、初期防除に成功し、その後の増殖を抑えることが出来ました。

その結果、サンクリスタル乳剤の散布区では、散布しなかった区（無散布区）と比較してハクサイダニの頭数がほとんど増えず、ハクサイダニによる食害も見られませんでした。無散布区では12月下旬から品質低下が目立ち、1月以降はほとんど出荷できませんでしたが、散布区では食害が無く安定して出荷することができました。

表 シュンギクにおけるハクサイダニの発生頭数の推移

	区	12/2	12/6	12/14	12/27	1/6
発生頭数 (匹/株)	散布区	6.0	2.3	4.0	3.0	4.2
	無散布区	5.3	6.2	13.7	47.2	108.0



無散布区のシュンギク (1/13)



無散布区と隣接するコマツナの食害 (1/13)

有機農業再生支援事業実証ほ 小麦 (磐梯町)

会津農林事務所農業振興普及部

会津農林事務所管内で生産されている有機そばの付加価値を高めるための加工品（麺）の可能性を探るため、そのつなぎ原料となる有機小麦の生産安定に向けて、平成27～28年度にかけて、以下の調査を実施したので、その結果を報告します。

1 ほ場等の概要

項 目	概 要
設置場所	磐梯町大字大谷地区
面積（有機栽培年数）	23 a（1年）
品種名	ゆきちから
播種・播種量	平成27年10月15日（12kg/10 a）
播種方法	散播

2 実証内容

(1) 緑肥による地力改善と施肥量の削減

平成27年6月17日に播種、9月20日に緑肥作物として「セスバニア」をすき込みしました。なお、このほか9月24日に土壤改良材、10月1日に鶏ふん堆肥を、翌年3月25日に追肥を実施しています。

土壌分析（表1）からは、緑肥作物（セスバニア）のすき込みによる地力改善効果は判然としませんでした。単年での効果は見えにくいため、継続的に実施する必要があります。

なお、緑肥作物の生育量を確保するために、播種時期を5月下旬～6月上旬とし、播種後90日を目安にすき込み行うことが必要と思われます。



セスバニア

表1 土壌分析結果

調査時期	pH (H ₂ O)	EC (ms/cm)	CEC (me/100g)	可給態リン酸 (mg/100g)	カリ (me/100g)	石灰 (mg/100g)
作付前(H27)	6.3	0.029	17.1	2.3	40.8	270
作付後(H28)	6.4	0.020	17.7	7.4	49.9	211

※生育及び収量

項目	成熟期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	全重 (kg/a)	子実重 (kg/a)	千粒重 (g)	倒伏 (0～5)
	6/20頃	77.1	8.8	358	34.2	17.2	38.5	1

(2) 有機JAS適合資材による赤かび病の防除

有機JAS適合資材として、「撒粉ボルドーDL粉剤」を5月9日、16日の2回散布した結果、赤かび病は発生しませんでした。

ただし、ドリフトを少なく抑えたDL粉剤であっても、風の影響を受ける可能性があり、より適当な資材を選択する必要があります。

(3) 有機小麦の加工（そばのつなぎとしての）特性

製粉後の外観、色、触感及び製麺作業時までは、特に問題となる点はなく、品質的には慣行栽培のものと同様でした。

なお、麺は冷凍生麺への加工となりましたが、小麦の比率が少ないほど、冷凍麺では茹でる際に切れやすくなりました。



「撒粉ボルドー粉剤DL」散布作業



収穫直前 (6/25)

オーガニックライフスタイルEXPOへの出展

農業総合センター有機農業推進室

11月18日(金)から19日(土)にかけて、東京都千代田区の東京国際フォーラムで開催されたオーガニックライフスタイルEXPOに、福島県内の有機農業者組織「オーガニックふくしま安達」と「会津自然塾」、「喜多方ゆうきの和」が出展し、有機農産物のPR・販売を行いました。

当日はハクサイやカブなどの冬野菜の他、身不知柿やドライトマト、有機野菜を原料としたソースなどの加工品を販売し、来場者からは好評でした。

また、福島県のブースとして、県内の有機農産物や団体を紹介するコーナーも作り、ブースを訪れた人達に福島県の有機農産物についてPRを行いました。



福島県のブース



会津自然塾



喜多方ゆうきの和

水稻除草技術の向上を目指して ～会津方部有機農業研修会が開催されました～

会津農林事務所農業振興普及部

3月2日（木）、NOSAI福島会津支所で、平成28年度会津方部有機栽培研修会を開催し、水稻有機栽培農家を中心に関係機関等約50名が出席しました。

講演では、農研機構中央農業研究センター作物栽培グループの三浦グループ長より、除草機を中心とした水田除草技術の現状等について紹介をいただきました。また、郡山市の中村和夫氏からは、自らの有機栽培の取組についての経緯や、試行錯誤しながら実践している除草技術についてお話いただきました。このほか、当農林事務所が喜多方市で行っている、乗用型除草機による除草効果の実証試験を報告しました。



三浦グループ長の講演

出席者は、今年の作付に活かせるヒントを探ろうと、除草機利用に伴う収量や品質についての質問や、除草機利用だけでなく雑草が発生しにくいほ場条件にすることも必要、などの意見も出るなど、活発な質疑となり、除草技術が大きな課題の一つだと改めて感じさせられる研修会となりました。

《お知らせ》

○環境にやさしい農業拡大推進事業について

福島県では新たな風評対策の一環として平成29年度より有機農産物の供給拡大を進めるため「環境にやさしい農業拡大推進」に取り組みます。

事業では、有機農業に取り組む農業者の方の有機JAS認証の取得支援、有機農産物の生産拡大や安定化に必要な施設や機械等に対する支援を実施する予定です。

なお、詳細は今後県ホームページ等でお知らせいたします。

「環境にやさしい農業拡大推進事業」

主な事業内容（補助事業）

1 有機JAS認証拡大支援事業

(1) 有機JAS認証取得支援

農業者が有機JAS認証の取得に要する経費を支援します。

補助率：新規に取得する場合：申請費用の3/4以内

認定を継続する場合：継続申請費用の1/2以内

(2) 有機JAS認定（小分）取得支援

有機農産物を扱う事業者の有機JAS（小分）認証の新規認定取得に要する経費を支援します。

補助率：定額（補助上限あり）※施設整備については1/2以内（上限有り）

2 環境にやさしい農産物供給体制の整備

有機農業等荷取り組む生産者が生産規模や品目の拡大、生産・出荷の安定化に向け、共同で利用する施設・機械等の導入経費を支援します。

補助率：1/2以内